

## 踏 み 跡 < My mountains >

奥武蔵

武甲山

No. 020

昭和 38 年 7 月 14 日

高校の同級である恩田、石川、高橋に会社で同期入社した新しい友である村越が加わり、計5人の山行。夜の池袋駅に集合し、東上線で寄居へ、秩父鉄道に乗り換えて「お花畑」という可愛らしい名の駅に下車した。まだ西武線が秩父まで走っていない時代なので、お花畑（現在の駅名は「秩父」）まで行くのは大変だった。駅名は可愛らしいが、秩父盆地の暗闇に時々犬の遠吠えが響く田舎の駅だった。

駅のベンチや出札窓口の棚の上、手荷物扱い口のカウンターなどをそれぞれ寝床として見つけ、仮眠。

明け方は結構冷え込んだ。

4時過ぎに駅舎を出発。天気は快晴、犬に吠えられながら薄暗い町を歩く。

体が温まってくると、歩きながらもコックリコックリ居眠りができる。その内に日が昇り段々暑くなってきた。どんな景色か?ということよりも睡眠不足の体から汗が搾り出されるように流れ出て随分くたびれた、ということの方が強く印象に残っている。

犬に吠えられたことは覚えているが、どこをどう歩いたかは記録もないし記憶もない。お花畑駅を起点としたので、おそらく横瀬から生川沿いに入り、表参道から登ったのではないかと思う。

武甲山の頂上(1295.4m)はなかなかの眺めだった。特に北側が絶壁になっている関係で、真下に広がる秩父盆地とその向こうに幾重にも連なる上信方面の山波が素晴らしい。遠くにかすかに見えた鋸の歯のような両神山が印象的だった。南側は、峰つながりの奥多摩、奥秩父の稜線が大きい。

長い休憩の後、小持山(1273m)・大持山(1294.1m)・横倉山(1197m)と南へ尾根伝いに進み、鳥首峠(853m)から白岩入りの谷に入り名郷部落へ下った。

名郷から飯能へ行くバスに乗るとかわいくて親切な車掌がいる、という高橋の話に一同期待して乗り込んだ。残念なことにその結果については手帳にメモされていなかった。

と言うよりも、かなりリラックスして山歩きを楽しんだようで、前述の様にコースタイムのメモも何も残っていなかった。写真と、頭の中に残った記憶をつなぎ合わせてまとめてみた。



武甲山山頂 (左から 石川、小林、恩田、村越、高橋)

以上

(修正・更新:2023年9月)